

	大阪大学 保健系分野 (歯学)
学部・研究科名	歯学部 (1年次: 53名) 歯学研究科 (D: 55名)
沿革・設置目的	<p>昭和26年、歯学に関する教育・研究を行うことを目的とし、大阪大学歯学部が設置された。</p> <p>昭和24年 (1949年) 新制大阪大学設置 昭和25年 (1950年) 大阪大学医学部に歯学科を設置 昭和26年 (1951年) 大阪大学歯学部設置 昭和35年 (1960年) 大阪大学大学院歯学研究科設置 平成16年 (2004年) 国立大学法人に移行</p>
強みや特色などの役割	<p>○ 大阪大学の理念等に基づき、一般医学に基礎をおいた口腔科学として歯科を理解し、口腔保健を通して人が健康で豊かな生活を送ることに貢献できる良質な高度歯科医療人、及び口腔から体全体を科学の目で見ることができ、口腔科学分野のみならず、生命科学全般においてグローバルかつ多様な分野で活躍できる専門性、俯瞰力、国際性、複眼的思考能力を具備する口腔科学研究者・教育者の養成を積極的に推進する。</p> <p>○ 従来の歯学に分子細胞生物学的根拠を融合させたフロンティアバイオデデンティストリー (FBD) を創生し、顎顔面口腔領域の難治性疾患 (「口の難病」) の原因解明など各領域での先端的な基礎研究をさらに推進し、それらの成果を再生歯科医療、予測歯科学などの内科的歯科医療、オーダーメイド治療法などの新たな歯科医療技術の開発・実用化へ発展させ、歯科医療水準の向上を目指す。</p> <p>○ 口唇裂・口蓋裂・顎顔面形成不全の患者に対する生涯にわたる包括的治療、難治性疾患に関するデータベースの構築、生物学的基盤に立脚した再生歯科医療等の取組を通じて、先端的な歯科医療を推進する中心的役割を果たす。</p> <p>○ 難治性歯周疾患や顎顔面形成不全を始めとする「口の難病」に関する基礎研究を行い、これらの研究成果を新規治療・包括的治療へつなげ、成果を広く社会に公表するとともに、リカレント教育を積極的に行い、我が国の難治性歯科疾患治療の向上に貢献する。</p>